



総務部 防災危機管理室 玉城 尚 室長

早めの行動と 不要不急の外出を控える

対策を怠ると他の人にも被害が必要で、些細な台風対策でもきちんとやらなければいけないという気持ちを持つてほしいと思います。台風は強風で物を飛ばします。空き家の水タンクなども飛ばします。そのことで家屋や車両を破壊したり、道路を寸断、最悪

台風の被害を最小限に抑えるためにまず大事なことは、早めの行動を心掛けるということです。襲来時は猛烈な風雨によって停電することもあります。「備えあれば憂いなし」あらゆる事態想定して必要なものを買うに行く、ベランダにあるものを片付ける、窓を固定するなど、「外に出ないための準備」が必要で、

沖繩には「なんくるないさー」という方言があるように、沖縄県民は良くも悪くも楽観的なのがあります。台風襲来時こそ。直前になるまで行動しない、もしくは襲来時になって初めて行動するといふ人たちは決して少なくないのではと感じています。

台風も自然災害の一つ

周りの頼り頼られる。あらゆる対策を講じた上で、災害被害をゼロにする事が望ましい結果ですが、どれだけ万全に対策をしても被害はゼロではありません。一人では対処できないこともあります。周りの人々と連携しながら、万全の態勢で対応しましょう。

最接近時は絶対に外に出ないことです。飛来したものが直撃したり、強風にあおられ転倒する危険、ドアに指が挟まれ切断してしまう事故が発生するなど被害を負うリスクが極めて高くなります。たとえ自宅で待機していても飛来物で窓などが破損する場合があります。危険な状況であれば、お風呂場などの安全な場所に避難してください。破損した場所をすぐさま修繕しようとしても、暴風でうまくいかないどころか、さらなる被害にあう危険性もあるため、破損した場所の修繕などは台風通過後に行ってください。

の場合人身事故におよびます。不要不急の外出を控える。最接近時は絶対に外に出ないことです。飛来したものが直撃したり、強風にあおられ転倒する危険、ドアに指が挟まれ切断してしまう事故が発生するなど被害を負うリスクが極めて高くなります。たとえ自宅で待機していても飛来物で窓などが破損する場合があります。危険な状況であれば、お風呂場などの安全な場所に避難してください。破損した場所をすぐさま修繕しようとしても、暴風でうまくいかないどころか、さらなる被害にあう危険性もあるため、破損した場所の修繕などは台風通過後に行ってください。



土砂災害警戒区域を知る

土砂災害警戒区域の指定は、土砂災害の恐れのある区域を地域住民にお知らせして、土砂災害への警戒及び避難に備えることを目的で行うものであり、対策工事等を行うものではありません。

■主な自然災害状況(過去5年)

災害年月・種別	被害内容
平成22年6月11日 大雨	道路破損1箇所
平成23年8月3日 台風第9号	負傷者(軽傷)3人、崖崩れ3箇所
平成24年9月28日 台風第17号	負傷者(重傷1人、軽傷4人)、住宅半壊4棟、住宅一部損壊1棟
平成25年10月4日 台風第23号	道路破損1箇所
平成26年5月12日 大雨	崖崩れ3箇所
平成26年7月7日 台風第8号	負傷者(重傷1人、軽傷2人)、浸水(床上9棟、床下6棟)、崖崩れ3箇所

浦添市内には、台風時や大雨時に土砂災害が発生する恐れのある区域が複数あります。それを示した図が上の「土砂災害警戒区域図」です。(この警戒区域図は沖縄県ホームページにある「沖縄県地図情報システム」で詳細を確認できます) 平成26年6月の大雨、同年7月に襲来した台風8号の時には浦添市内3か所で崖崩れが発生しています。崖崩れなどは事前に察知することが難しく、発生すると住宅の損壊、場合によっては生命に関わることもあります。皆さんの住んでいる地区が危



険箇所に該当していないか確認しておいてください。集中的な豪雨などにより土砂災害の危険度が高まった場合、沖縄県と沖縄気象台が共同で、市町村を特定した形で「土砂災害警戒情報」を発表します。警戒区域を知った上で、この情報が発表された際は、迅速な判断で自主的に避難をするなど万が一に備えることが大切です。日頃から家族や隣近所など密にコミュニケーションを取り合い、情報を共有し、高齢者や身体の不自由な人、小さな子どもを抱える家庭など、地域みんなで協力し合いながら避難しましょう。

備えは万全ですか？

台風の発生から発達、予想進路などの状況はテレビや新聞、パソコンなどで事前に情報を得る事ができます。台風が来ると分かって「まず何をしたらいいかわからない」そんな人は以下のチェックリストを活用してみてください。

台風が襲来する前にやるべきこと

- 窓の雨戸に鍵をかけ、心配であれば補強する。雨水侵入防止のため窓枠の間を新聞紙で詰める。
- 木や電柱などの倒れる危険性があるところに車などを止めない。
- ベランダにある飛ばされやすい物は部屋の中に入れる。
- エアコンの室外機やアンテナなどの飛ばし危険なものはしっかりと固定する。
- 冷蔵庫のチェック
- 家庭用PCのバックアップ

停電や避難時の備えリスト

- 懐中電灯
- 電池(単三・単四など各サイズ)
- 日持ちする食品(缶詰や乾パンなど)
- 飲料水・コップ
- 救急薬品
- ラジオ
- 携帯電話・充電機・バッテリー
- 雨具
- 衣類・タオル・ポケットティッシュ
- マスク・生理用品
- 防寒マット・ホッカイロ(停電した際、暖房器具が使えなくなります)
- ライター・マッチなど

台風経過後に注意すること

- 葉やゴミなどが排水路塔に詰まってしまうと、水が流れず溜まってしまいます。排水路等の点検をしゴミなどは取り除く。
- 屋根材にズレなどがあると、そこから水が侵入し雨漏りの原因となります。屋根材に異変を見つけたら、早めに修理・補修を行う。
- 外壁面に目地のひび割れ・塗装面の剥がれや浮きはありますか？ひび割れ等があった場合、徐々に浸水し、柱の腐敗やシロアリの侵入などにも繋がります。